

## 第44回合唱の会を終えて

12月21日(木)。気持ちのよい朝を迎えることができました。そして附属小の校庭では、いつも通り歓声をあげながら朝の遊びに夢中になっている子どもたちの光景を目にすることができました。私はシャツの上にセーターを着て、さらにその上にジャンパーという厚着で校庭にむかうのですが、子どもたちはほとんど運動着だけ、中には今でも半袖短パンで校庭を駆け回っている子どもたちがいるから驚きです。

合唱の会。本当にお疲れ様でした。昨日は合唱の会が始まった当時校長先生だった中森先生もおいでいただきました。お帰りになる前に、今も学校教育目標が変わっていないことにふれ、「しなやかさ、ということを当時随分議論したんです」ということをお話くださいました。私自身も12年振りに参加させていただき、改めて合唱の会のもつ教育的な意義を考えることができました。特に子どもたちのあの集中力は本当に見事でした。また、イズミティの大ホール全体に音楽を聴く雰囲気できていて、心地よい緊張感の中で会に参加することができました。昨日の会場の雰囲気は、子どもたちや我々教職員だけで作りあげたものではなく、ご来場いただいた保護者の皆様が気持ちを揃えたからこそできたものであったと思います。幸いにも私は来賓席で全30曲を聴かせていただき、子どもたちが先生方の指揮で歌う姿から合唱の会がなぜ40年以上も続いているのかを改めて感じることができました。一方、全曲聴かせていただいたからこそ感じる部分もありました。

それは、学級合唱の選曲についてです。子どもたちの力を引き出している曲と、どうも子どもたちが歌いきれていないのではないかと、という曲があるように感じました。ただ、選曲にかける先生方の熱い思いも十分に分かるので、そこを指摘するのは辛いことでもありますが……。

洋服で考えてみましょう。子どもには体格にあった服を選びます。どんなに素敵な服でも、サイズが合わないものは決して選ばないはずで。

昨夜は吉川校長先生にこのあたりの素人の感想を伝えてみました。すると校長先生から、合唱曲としてふさわしい曲には音符や歌詞などいくつかの条件があることを教えていただき今更ながら「なるほど!」と納得することができました。実は校長先生は、来賓席で「後から感想を求められるかもしれないので」と言いながら、全学級の合唱曲についてご感想を書かれていました。ここは遠慮なく校長先生に感想を聞いてみてください。

昨日は1年目の本郷先生、遠藤宏紀先生、柴生先生、上杉先生、玉手先生も指揮者デビューを立派に果たしてくれました。どんな感想をもったか聞きたいところでもあります。附属小の先輩方の取り組みからたくさんを学んでいただいたことと思います。ぜひ、今日からの附属小学校の教育活動につなげていただければ、と期待しています。

昨日は丹野さんや裕子先生を中心に舞台裏もしっかり支えていただいたことも忘れてはいけません。そして慰労会まで企画していただいた一友の幹事の皆さん、本当にお疲れ様でした。